

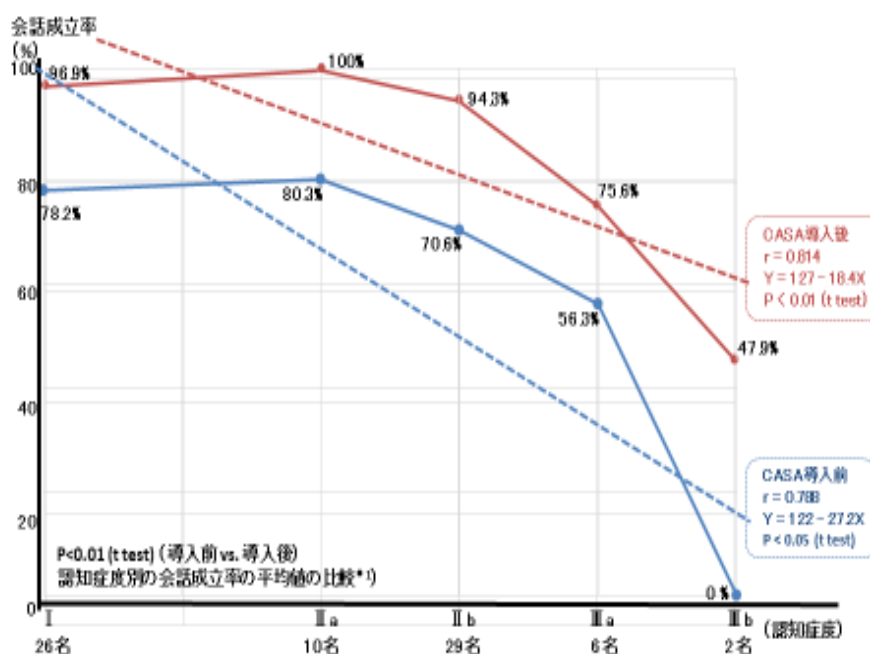
(第10報) 日本自立支援・パワリハ学会、2018年(東京)

演題名：CASAは認知症度がⅠからⅢbのレベルで、会話成功率を上昇させた

発表者：浅田 章、坂東 隆史、木村 悦子、山中 道江、草野 孝文\*

所属：すこやか生野、アエバ外科病院\*

## CASAは認知症の方の会話成立率を改善した その効果はⅠからⅢbまでのレベルで認められた



\*1) 認知症のない名、および重度難聴(100dB)と診断されていた1名を統計の対象から除外した

概略：75名に、のべ1,210回の面談を行った。75名の会話成立率（会話成立回数/会話施行回数）はCASA導入により、平均70.9%から92.0%に有意に改善された。認知症度、1（Ⅰ）から3.5（Ⅲb）までのレベルで、CASA導入後に、会話成立率が有意に上昇した。認知症度が高度な人でも、CASAは会話成立率を有意に上昇させた。